

一里塚 無所属 田村栄子

久喜市議会議員



田村栄子
久喜市議会議員
総務財政市民常任委員、
予算決算常任委員、議会
広報委員、情報コミュニ
ケーション（ICT）委員
静桜里親の会会長
大阪府豊中市出身
武庫川女子大学卒
武庫川女子大学助手
南カリフォルニア大研修
各種専門学校講師
大妻女子大学講師 歴任

久喜市議会
会派フェニックス

連絡所〒349-1117 久喜市南栗橋 5-11-7 TEL 0480-52-8240 FAX 0480-55-1124

<https://ameblo.jp/tamura-eiko-kuki/> <http://tamura-ek2.matrix.jp/>

移転決定 済生会栗橋病院 新病院 埼玉県済生会加須病院（仮称）

加須市に新病院を2021年10月開設
する基本協定が締結されました。

予定地加須市礼羽7-1ほか 敷地約4ha
建築面積約6,850㎡ 病院棟6階建1棟
東武加須駅より南約500m
済生会栗橋病院より車で約30分

調印式開催：2018年9月25日に加須市長、埼玉県
済生会支部長、済生会栗橋病院長による調印で新
病院の建設運営基本協定が締結されました。
約300床規模。栗橋病院は移転が決定的になり
ました。



住民のたつての願であった済生会栗橋病院の
現在地での存続は叶いませんでした。このまま
では困ります。なんとかしなければなりません。



移転後は栗橋の現在地に 地元で通える診療所・救急医療を願う

栗橋地区には診療所が減少してきています。周辺の人々がすぐに通える、複数の診療科の揃った
診療所集合体、一次救急の開設が急務 となります。

移転後 住民にとって望ましい姿の整備を願う!!

裏面に関連11月議会質問



成人の日(1/13)
これから期待される若い
人たちが賑わいました

旧東京理科大跡施設・土地の利用

久喜市立学校給食センター建設予定

現在地の旧理科大校舎横に面積1.2ha に34校分（23小学校と11
中学校）の給食を賄う施設建設予定。2021年の2学期より稼働
開始予定で、専属栄養士3人、建設費用約44億7千万円です。

旧東京理科大跡地（敷地5.53ha、
建物8.8千平方メートル）

現在写真のような建物が立っています。
現建物を利用するとしたら目的に合うかど
うかや耐震性も問題です。このため当地の
今後をどうするかはあらゆる可能性を考
えて検討中です。現在は久喜市教育委員会が
使用しています。



防災

大規模水害時は早めに遠方の安全な場所への避難を！
地元に3階以上で避難できる建物は少ないです

大災害時には公助に頼るのは無理で「自分の命は自分で守る」
（自助）が前提とされています。住民には的確な防災・避難情
報が必要。そのため質の高いスペシャリストの養成を市に望み
ます。和歌山市では過去の災害に鑑み、その取り組みを行って
います。避難時に自分で行動を判断するも、頼りとなるハザ
ードマップは簡潔で分かりやすくする必要があります。特に水害
時早期の避難と安全行動を明記することを望みます（東京都内
で実施）。

現在久喜市は見直し中です。

裏面に議会質問

風疹流行への対策を 特に市役所内

感染力の強い風疹が流行っており妊娠初期の赤ちゃんに健康被害がおよぶ恐れがあります。市役所来所者
への感染抑止のため、予防接種を受ける機会のなかった
特に男性職員に予防接種の受けることの周知徹底を
望みます。

裏面に関連11月議会質問

プラスチックごみ問題

世界的にもプラごみによる海洋汚染が問題となり人への
健康悪影響も予想されます。プラごみ減量化への取組は
昨年10月に衛生組合で「ノーレジ袋キャンペーン」を行って
おり、今後久喜市としてもごみ減量化を含め啓発普及を
行う予定としています。

裏面に関連11月議会質問

ごみ問題に詳しい京都大 浅利准
教授に伺ったところ、京都市・大学
が提携しごみ分析を行い市民や商
店の協力を得て、ごみ減量化に効
果を上げているとのこと。



京都大学大学院浅利准教授に面会
（大学院地球環境学
COP24キャンペーン 2018東京にて、
2015年栗橋南小放課後子ども教室
にて環境問題を講演）

公園に休息用ベンチを 大人の健康遊具を（関連 裏面）

公園にベンチ設置
南栗橋近隣公園に、休息用の
ベンチ設置を市に提案。直ぐ
に取り付けて頂きました。



暮らしと政治を結びます！

田村栄子の議会質問

一部抜粋 構成

議会では、毎回皆様の声を代弁して質問しています。市民の元気につながる質問をしていきたいと考えます。「こんなこと聞いて欲しい」という方はお知らせ下さい。



平成 30 年 11 月議会は 11 月 27 日～ 12 月 21 日まで行われました。下記は田村栄子の質問と市の議会回答の概要です。

済生会栗橋病院の移転問題

済生会栗橋病院の今後は

済生会栗橋病院（以下「同病院」と略）への今後の久喜市の取り組みを伺う

問 済生会栗橋病院の本体が加須市に移転することになった。加須市への移転理由をどう考えているか。

答 同病院の老朽化対策を検討するなかで、加須市は建築の必要経費を対応できることで覚書が結ばれたことによる。久喜市は費用を出せなかった。

問 同病院の跡地の今後の再整備案をどう考えているか。

答 埼玉県済生会支部理事会で、加須市の新病院の建築案と同病院の再整備案とが 11 月に示される予定であった。新病院案は具体的計画が提示されたが、再整備案はまだである。久喜市は今後連携して働きかける。

問 住民に必要なのは、まず病気のとき近くですぐに通える外来診療と一次救急である。栗橋地区内は診療所数が減ってきており、身近に通える医院が切望されている。病院の跡地にクリニックの集合体（たとえば診療科目：眼科、内科、外科、歯科など）が是非欲しい。医療機関として各科の診療所を集めることは考えていないか。

答 移転後 25 床が残るが病院としては経営面の厳しさもあり、他方市民の不安を考えると、19 床以下（診療所）で、同地に種々の科の集合したクリニックも一つの提案と思うので今後検討して参りたい。

久喜市職員の風疹予防体制の整備は

問 感染力の強い風疹が広がっている。妊娠初期の女性が感染すれば、生まれてきた赤ちゃんが「先天性風疹症候群」難聴、白内障、心臓病など健康被害を受ける恐れがある。予防接種で感染抑止できるとされる。市職員は市民に対面する機会が多く、予防接種の機会がなかった人には対応が必要だが、状況はいかがか。対象者は 1979 年 4 月以前に生まれた男性で 30 歳代から 50 歳代。なお、同年代の女性は中学時代に風疹の予防接種を受けている。

（抗体検査は県で無料。予防接種費用は補助有。）

答 調査によると本年の風疹罹患の 8 割強が男性となっている。免疫を持たない 30 歳以上の男性が多い。本市は 30 ～ 50 歳代の男性を抱える事業所であり感染拡大防止に努める必要があると考える。H30 年 4 月 1 日現在で 30 歳以上の男性職員中推計で 2 割 95 人が風疹免疫無の可能性がある。本市の窓口には妊娠中の女性も来られるので職員が感染源にならないよう努める：全職員への風疹に関する理解、抗体検査・予防接種の周知徹底。

防災への取り組み

問 予想のつかない災害時に的確な情報を市民に提供することが必要。そのために、職員はローテーションがある中ではあるが、災害時に市民の安全を守るような的確な判断ができる専門性の高いスペシャリストを養成すべきと思ういかがか。

答 職員の資質の向上は、災害時に迅速かつ的確に対応するために必要と認識している。内閣府や消防庁、埼玉県が実施する専門性の高い研修に防災担当職員を参加させている。市民の安全を守るよう職員の資質が一定の水準を保つよう人材育成に引き続き努める。

問 不測の災害時のブラックアウト（全停電）に対し自治体でも対応できるよう備えることが必要であるいかがか。

答 本市では防災中枢拠点となる本庁舎に連続運転 72 時間を想定した自家発電設備を整備している。また防災行政

無線は 72 時間分の蓄電池を各支局に整備している。ホームページ・広報紙等で市民に最低限の防災セットを用意していただくよう周知したい。

問 災害時には「自分の命は自分で守る」が原則とされているなか、洪水時特に栗橋地区は 3 階以上の避難できる建物が少ない上避難所が足りない。それを踏まえて水害から身を守るには早期の避難が強調されるべきで、避難所は年配者や逃げ切れない人のために残しておくべきと考える。現実にはハザードマップの避難所の指定通りに行動しても全員が安全とは言えない。

答 避難場所は指定された地区の人に限定されているのではなく自分で選べる。市民が判断できるようあらゆる手段で情報を提供。

問 自助が強調されるがハザードマップの一番初めのページに誤解の無いよう「自分の命は自分で守る」と明記し、「避難の手順」を載せることが必要である。

答 あらゆる手段で防災情報を市民に提供すると共にハザードマップ中の記載表現は工夫し改訂する。

プラスチックごみ問題

問 世界的にもプラごみによる海洋汚染が問題となり、人への健康悪影響が予想される。減量化の市の取組を伺う。

答 衛生組合では 2018 年 10 月の 1 か月をごみ減量化「ノーレジ袋キャンペーン」を行った。

問 キャンペーンの結果を検証したか。

答 行っていないが今後市としても啓発を実施して参りたい。

問 ごみ問題を専門に研究している京都大学の浅利准教授に直接話を伺ったところ京都市と大学が提携しごみを分析し、分別の徹底を市民や商店の協力を得て減量化に成功しているとのこと。久喜市も消費者や事業者にインセンティブ（刺激的）な制度を設けるべきと考えるいかがか。

答 容器包装やプラごみについては分別の徹底を願っているが未だに生ごみ等と一緒に入っている。プラごみの量を少なくする取組は今後も引き続きやっていかなければならない。

公園に健康遊具の設置を

問 大人の健康遊具が公園内に少ないいかがか。健康を維持する方法として公園内にあれば便利である。身近なところで体を動かすことができる。

答 健康遊具については、広い敷地面積を有し、公園内を周回できるような園路があり、幅広い世代の人に利用できる都市公園を中心に設置を進めている。

問 多くの人が利用する公園に健康遊具設置を望むいかがか。
答 既存の公園で健康遊具の設置を希望しているところもあるが、子供が使う遊具と大人が使う健康遊具が混在すると、幼児にリスクも懸念されるので、ある程度整理した上で、エリア分けができようであれば検討していきたい。